

## 問

遠野市の農政  
40年間を振り返つてみると、数百億の予算を投入しながら、個々の農家経営は改善されていないのではないか。花卉<sup>はな</sup>であるリンドウ、食用茸<sup>きのこ</sup>であるマッシュルーム、淡水魚である山女<sup>やまとめ</sup>、どれを見ても遠野市の特産品とかかれた原因の検証こそ必要ではないのか。

物事はすべて第一に綿密なる計画を立てる。第二に計画に沿つて実行する。第三に実行の経過をみて反省をする。第四に反省の上に立つて再検討をする。この繰り返しの進歩もあり得ないと思うがどうか。農家は生産に専念させ、売先である販路の拡

用茸であるマッシュルーム、淡水魚である山女、どれを見ても遠野市の特産品とはならなかつた。しかし特産品に届かなかつた原因の検証こそ必要ではないのか。

物事は改善されていながら、個々の農家経営ではないか。花卉<sup>はな</sup>であるリンドウ、食用茸<sup>きのこ</sup>であるマッシュルーム、淡水魚である山女<sup>やまとめ</sup>、どれを見ても遠野市の特産品とかかれた原因の検証こそ必要ではないのか。

大は、行政が専門職を配置して支援し、農家の所得向上を図るべきと考えるがどうか。農家所得の向上こそ町の繁栄、イコール市財政の充実へと繋がると考えるがどうか。

## 答

今までタフビ

ジョンの目指す姿を実現するために常に検証を忘れず、関係機関の連携により取り組んでいく。

販路拡大については、先進地に学ぶことは大切である。平成17年4月にアストを設置し、JA農業普及サブセンターと協力しながら、新たな契約栽培等の販路の開拓に取り組んできた。人材の確保と育成に關しては、必要不可欠な取り組みであることを痛感していることから、積極的に取り組んでいく。農

## 第二次產品の販路拡大について

萩野茂男議員(とおの会議)



業生産と所得を拡大し、元気な農業者を育成しながら、遠野市を元気な町にしている。今までJA農業普及センターと連携し、栽培技術を高め、消費者ニーズに応えられる農産物の生産を

目指し、さまざまな挑戦をし、農業の発展に取り組む覚悟である。



遠野の特產品のひとつである山ぶどうワイン